



Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター

 2012年6月受診者数：1827人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 1043人 (762人)
2. 咳 : 503人 (109人)
3. 鼻汁 : 422人 (6人)
4. 嘔吐 : 398人 (210人)
5. 下痢 : 281人 (63人)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 657人
2. 感染性胃腸炎 : 403人
3. じんま疹 : 119人
4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 110人
5. 気管支炎・肺炎 : 61人



今月のワンポイント！

2012年6月の神戸こども初期急病センターへの受診患者さんは5月と比べ約800人減って1827人となり、これは今年一番の少なさでした。神戸の6月の月最高気温は29.2度、月最低気温は18.6度であり、過ごし易い気温になって体調を崩すこどもが減ったと思われます。さらに、お天気を振り返りますと8日には気象庁から近畿地方の梅雨入りが発表されました。19日には例年になく早さで台風4号が日本列島に上陸しました。週末、雨が降る日も多かったです。天候が悪かったことも、受診患者さんの人数が減ったことと関係があるのかもしれませんが。

訴え、疾患頻度の順位は左記の通りです。主な訴えを見ますと、5月に4位であった「頭痛」が6月は5位以下となりました。変わって「下痢」が4位になっています。暑くなると細菌が増殖しやすくなりますので食中毒にご注意ください。各疾患の上位3つの順位をみますと5月と変わらず、5月に流行した疾患でそれぞれ人数が減ってきているようです。

さて、今回のワンポイントですが、神戸周辺では6月下旬からこども達がプールに入る機会が多くなります。例年、この時期から8月末にかけて、発熱、咽頭炎、結膜炎をおこすプール熱が流行します。感染経路は主に接触感染や飛まつ感染です。感染力が強いため患者が触れたタオル、ドアの把手、手すり、エレベータのボタンなどで感染する場合があります。予防のために、プールやお風呂に入る際、タオルの共用は止めましょう。うがい手洗いを励行してください。プール熱になってしまった場合は、小児科で診てもらい、重症化しないよう安静にしてください。プール熱の症状がある人やそのご家族は、他の人に感染症が広がらないように気をつけてあげてください。

では皆さん、感染症に対する正しい知識と予防方法を身につけて、元気に楽しく夏を過ごしてください。

